彦根市教育委員会会議録

会議の日	令和5年6月29日(木)
会議場所	彦根市役所本庁舎5－1会議室、5－2会議室
出席委員等 5人中 4人出席	教育長　西嶋　良年 教育長職務代理者　本田　啓子　委　員　小松　照明 委　員　田附　孝子
出席職員 (説明員)	教育部長　前川　学 教育部次長(教育総務課長)　小島　久喜 子ども未来部次長(幼児課長)　前川　昌敏 副参事(博物館副館長、学芸史料課長)　渡辺　恒一 学校教育課長　東野　了賢 学校教育課主幹　井上　崇子 学校ICT推進課長　北川　尚樹 学校支援・人権・いじめ対策課長　小磯　浩司 生涯学習課長　小椋　朋子 生涯学習課主幹　林　宏 博物館管理課長　野村　雅之 教育研究所長　清水　貴博 学校給食センター所長　今井　和宏 図書館長　田中　淑介 図書館主幹　鈴木　康浩 広野教育集会所長　中江　淳展 幼児課主幹　長谷川　知子

会議次第
1　開　会　午後1時30分
2　議　題　内　容　別添のとおり
議案第31号　彦根市教育委員会事務点検・評価委員会委員の委嘱について　(教育総務課)
議案第32号　彦根市通学区域審議会委員の委嘱について　(教育総務課)
議案第33号　彦根城博物館協議会委員の任命について　(彦根城博物館)
議案第34号　彦根市図書館協議会委員の任命について　(図書館)
3　その他　内　容　別添のとおり
4　閉　会　午後2時22分

1　開　会

教育長　ただ今から教育委員会会議を開会します。

本日提案している議題は、4件です。

本日の議事の進行につきましては、「教育長報告」の後、1件の報告事項を説明させていただきます。その後、議案第31号から議案第34号までの審議をいただき、その後、「各所属の取組事項について」の質疑を行い、「その他」で教育委員会の所管事項について、委員からのご質問をいただきます。

本日の議事進行につきまして、ご異議はありませんか。

各委員　なし。

教育長　それでは、まず私から「教育長報告」をさせていただきます。

5月31日水曜日ですが、第1回滋賀県第4地区令和6年度使用教科用図書採択協議会を本庁で開催しましたので、出席させていただきました。

6月2日金曜日ですが、午前中、6月の定例校長会議をWeb会議形式で行いまして、出席しました。午後、フリースクールの保護者から署名の提出があり、本庁で受け取りさせていただきました。

6月5日月曜日から6月市議会が開会しましたので、自席で傍聴させていただきました。

6月7日水曜日には、滋賀県退職校長さざなみ会総会がマリアージュ彦根で開催されましたので、出席させていただきました。

6月12日、6月13日、6月14日の3日間、市議会個人質問がありましたので、出席させていただきました。

6月16日金曜日ですが、予算常任委員会が開催されましたので、出席させていただきました。

6月20日火曜日、福祉病院教育常任委員会が開催されましたので、出席しました。

6月22日木曜日ですが、夏原工業様、滋賀レイクスターズ様から、市内の中学校7校にバスケットボールの寄贈をしていただきましたので、受け取りさせていただきました。

6月25日日曜日には、彦根青年会議所主催の写生大会、2023～Go To 彦根城～の表彰式がプロシードアリーナHIKONEで開催されましたので出席しました。

6月26日月曜日ですが、6月市議会が閉会となりました。自席で傍聴をさせていただきました。

6 月 27 日火曜日、彦根ユネスコ協会の理事会と総会が、彦根勤労福祉会館で開催されましたので、出席しました。

6 月 28 日水曜日、彦根市防災会議および彦根市国民保護協議会が、彦根商工会議所で開催されましたので、出席しました。

本日 6 月 29 日木曜日ですが、午前中、教育委員の皆様と一緒に学校訪問をさせていただきました。訪問させていただいた学校は、金城小学校および平田小学校でございます。

それから、午後から教育委員会会議となっています。

報告は以上です。何かご質問やご意見がありましたらお願いします。

各委員　なし。

2　前回会議録の承認

3　報告事項

教育長　次第3「報告事項」に入らせていただきます。

「令和5年6月市議会について」報告をお願いします。

教育部次長から報告がありました。

小松委員　ここの中身の質問ではないのですが。議員が質問する内容なのですが、今回であれば、放課後児童クラブの負担金の件で、北川議員、黒澤議員、奥野議員の 3 名の方が、ほとんど同じような質問をされています。これは、会派が違ったら、質問内容は自由なのですか。同じ質問は調整するとか、会議時間の無駄とは言いませんが、ちょっと疑問に感じるところがあります。今回の場合は特に、同じ内容で 3 人も質問しているというのは、ちょっと違和感を感じたので、その辺のルールがないかどうか、わかれば教えて欲しいです。

教育部長　放課後児童クラブ負担金の値上げの件については、3 人から質問をいただきました。小松委員のおっしゃる通り、会派の中では調整をされていると聞いております。個人質問なので、何を聞くのかは個人の判断なのですが、会派の中では調整をされていると聞いています。3 人はそれぞれ会派が違いますし、奥野議員は 1 人会派というか、どこにも属しておられない方です。その 3 人は全く調整する機会がないということで、同じような質問になったのかなと思います。質問の意図としては、反対の立場からと賛成の立場からと、いろいろ思いはお持ちなのですが、ニュアンスがちょっとずつ違うということになっていますので、そ

れぞれお答えしました。

本田職務代理者　42 ページあたりからの奥野議員の質問で、その指摘はとても最もだと思いながら、質問書とか答弁書を読ませていただきました。学校が安全であるために、毎月何日か安全点検日を決めて、各学校で点検をされていると思いますが、環境とか子どもの動きというのは日によっても違いますし、どこに危険が潜んでいるかわからないような状態の中、特に教頭先生とかはいつも気をつけて回ってくれていると思うのですが、やはり安全点検日とかの回り方とか、複数の目での点検とか、そういうことをもっともっと日々更新していくくらいの気持ちでやっていくべきだということを思いました。今日、学校訪問をしている時でも、ちょっとしたところの段差が気になったりとか、それから壁が剥がれ落ちているようなところがあって、それがすごく気になったりとか、学校だけではどうしようもできないような危険な箇所とか、死角になっているところとかがあるということがよくわかりましたので、特に安全点検を、議員ご指摘のように、気をつけて行っていただきたいと思いました。

教育部長　奥野議員が、大項目にあるように、KYT 危険予知トレーニングの観点から、ということで質問をいただいていますので、危なそうなところをすべて直せということではなくて、そういう危険を察知する力とか、そういうものも重要だという意味で質問をいただいたのかなと思っています。

教員とか学校施設の担当者からしても、子どもの目線でそういう危険がどこにあるのか、そういう対応をして欲しいという意味での質問かなと思っています。何でもかんでも直せっていうことではないですし、回答としても、そのようには回答せず、1 ヶ所だけコンクリートがちょっと出たところがあるので、これは直させてもらうと言いましたけれど。そういう観点でやっていきたいと思っていますので、今後もそういう視点に立って整備していきたいと思っています。

最後に、質問ではないのですが、一つ報告しておきたいことがあります。福祉病院教育常任委員会において、フリースクール「てだのふあ」代表の山下先生から議会に対して、フリースクールへの公的支援の要望ということで、請願が出ました。この請願書に対して、市議会では全会一致で採択されましたので、ここで報告させていただきます。2 年ほど前に同じような請願が出ていまして、それに基づいて、保護者へのフリースクール利用料の補助をやっていますけれど。それは、一歩前進ということで評価はいただいているのですが、さらに保護者ではなくて、団体の方に直接、公的な支援をいただきたいという内容で請願が出されて、

常任委員会でも全員賛成で、そして本会議でも全員賛成ということで、採択されましたので報告させていただきます。

小松委員　今の部長の説明に対する質問ですが、全会一致で採択されたとは、これからいくら予算を市が出すのか、そういうことを検討するということですか。採択する中身については何もないわけですよね。それと、教育研究所の今の施設との兼ね合い。それと持続可能性、あくまで民間がやっているので、いつ手を放すのかがわからない。そういう持続可能性のリスク、そういうことがある程度はっきりした項目で出ていないと、簡単に採択できる問題ではなのではないかと。そういう中身が出てきたというわけですよね。それと、その金額についていくらするのかとか。そういうことについて、これからどうするのか。その採択されたという意味が、ちょっとわからないです。

教育部長　この請願内容としては、フリースクールの運営に対して公的な支援をお願いしたいという内容でして、それについて全員賛成ということで、採択が行われました。具体的には、委員会の中で、議員からはいろいろ質問があって、いくらぐらい必要なのかという質問も出まして、運営資金としては、年間で保護者からの利用料を除くと 350 万円ぐらい足りないというような話をされていましたので、要求額としてはそれぐらいになるのかなと思っています。あと、これは議会として採択されたのであって、それを受けて、今後市として教育委員会はどのようにしていくかはこれからの話であって、採択があったのでこれに対してどういう態度をとるかというのは、後々決めていくことになると思いますし、聞かれることにもなりますが、法的な拘束力はありませんし、採択されたからやらないといけないということでもありません。どういう風にするのか、後々聞かれるかなと思います。やらないのですか、やるのですか、とか。採択を受けてどう対応されましたかとか、というような話にはなってくると思いますが、現時点では公的支援の必要性はあるということで、市議会が判断したということだと思っています。

小松委員　議員が採択したということは、市に対して、それに対する中身の条例を作りなさいということで考えたらよいわけですか。それをもとに、市側が教育委員会も含めていろいろ議論をすると、そういう段階だと考えてよいですか。

教育部長　市議会がこの請願を必要と認めたのですが、さきほども言いましたが法的な拘束力はなく、絶対作らないといけないとか、そういうことではありません。採択を受けて、市長部局と相談していきますが、今、保護者への補助をしているので、この請願内容は必要ないと

いう判断になれば、しませんという回答になります。いろいろ保護者への補助はしているのですが、団体としては非常に運営が不安定であるとおっしゃっているので、そういうところに補助をしてもらわないと、そのフリースクールは、教育委員会としてもいろいろな受け皿があった方がよいということで回答していますので、そういう面からも急になくなったりすると、また受け皿が減ってしまうということになるので、この運営の不安定なところを手当して欲しいという意味での要望かなと思っています。これは教育委員会、予算のことになると市長部局ということになりますので、その辺は協議していきます。それと、委員がおっしゃったオアシスを持っていますし、保護者への補助は県下でも早めに整備しており、早い取組みもさせてもらっているので、その辺も勘案して、今後検討していきたいというふうに思っています。

4　議題

議案第 31 号　彦根市教育委員会事務点検・評価委員会委員の委嘱について

教育総務課長から説明がありました。

議案第 31 号は原案のとおり承認されました。

議案第 32 号　彦根市通学区域審議会委員の委嘱について

教育総務課長から説明がありました。

小松委員　今の説明ですと、西田委員が 1 名欠員となり、代わりに山田さんが入られたと。名簿を見ると、他にも新任の方がいらっしゃいます、5 人ぐらい。これらの方は、誰の代わりに委員になるのですか。

教育総務課長　今回の提案では、新任の方は山田さんだけですが、他の新任の方につきましては、今回の任期が令和 4 年から始まっているのですが、その任期が始まった時点での新任という意味で、あとは、任期途中で役職の交代により代わられたという方が新任ということになっています。今回は、山田さんのみ交代で、新任ということになります。

議案第 32 号は原案のとおり承認されました。

議案第 33 号　彦根城博物館協議会委員の任命について

彦根城博物館　管理課長から説明がありました。

議案第 33 号は原案のとおり承認されました。

議案第 34 号　彦根市図書館協議会委員の任命について

　図書館長から説明がありました。

小松委員　委員名簿の備考欄にある、1 号から 4 号というのはどういう意味ですか。各数字の意味は。

図書館長　名簿の下に、参考と書かせていただいています、彦根市図書館の設置および管理に関する条例の抜粋ですが、第 4 条第 3 項の（1）、（2）、（3）、（4）というのが各号です。

議案第 34 号は原案のとおり承認されました。

5　各所属の取組事項について

小松委員　学校 ICT 推進課に対してですが、今日の午前中、金城小学校と平田小学校の授業の様子を見せていただきました。現場でも話したのですが、やはり ICT というのが定着しているという感じを受けました。1 年生だけは 6 月からいうことだったので、まだそこまでではなかったですが、特に 4 年生以上の高学年ですね。授業の内容と使っている生徒の動作は、わずか 3 時間でしたが、この 2 年間で定着しているという感じを受けました。ただ、その時に思ったのは、授業の中で、テーマとして何をやるかということ。5、6 年生は、自分の未来の職業に対してとか、そのために何をするのかというテーマを与えられて、何か作っていたのですが。そのテーマ設定をどうしているかと聞いたら、学校ごとに先生方が考えているという話でした。これからの段階は、テーマの中身というか、その ICT を使って自分で考える力、それをつけるには、テーマ設定というのは非常に大事かなというふうに思います。それを学校の先生任せにはしていないと思うのですが、そこを重点的に考えるのは、やはり事務局だと思います。学校 ICT 推進課が、彦根市の今やっているテーマ、各学校、数学とか理科とか科目ごとに ICT をどう使っているか、どんなテーマでやっているかいうのをまとめるとか。彦根市以外ではどういうことをやっているのか、さらには全国でどのような使い方をやっているのか。そこの情報を集めて発信して、レベルを上げていくという仕事は、学校 ICT 推進課のこれから 3 年目、4 年目の大きな仕事ではないかなと。北川課長からは、大阪のいろいろな展示会に行ったり、東京の幕張に行って、いろいろな教材を集めようとしているという話を聞いて、やはりそういう面で全国の情報、いろいろな情報を集めて、やって欲しい。

現場の方で、これからの活用レベルを上げるには、それがテーマだと感じたので。

今、北川課長が考えていることがあれば、ちょっと聞かせて欲しいと思います。

学校 ICT 推進課長　今いただいた意見ですが、私自身も同じような思いです。ここまで環境整備、設備の導入等を行ってきたわけですが、決して機器を収めるだけの商社ではありませんので、今日学校を訪問して感じてくださったように、これからの学校はデジタル社会に生きる子どもたちが、本当に格差なく ICT に触れられる場所にならないといけないと感じています。その先に、情報であるとかネットワークの活用をし、これまでの学校教育のよさを生かしつつ、すべての子どもたちに最適な学びを提供するような新たな教育があるものと考えています。

今、お聞きしたテーマの扱いにつきましては、やはり子どもたちの実態であるとか、学校の環境風土というものも大きく影響していると思いますので一律には提示できませんが、ただ、そこは各校に任せきりというふうには決して考えていません。前回、この会議の中でもお伝えしましたように、研修会を持つことで、まずボトムアップを図っていく必要があると感じています。教員間の格差がないとは言えませんので、全体に ICT の文化というものを定着させていく必要があると考えていますので、今後もその研修会については随時実施していきます。その中で、当然、他市町、全国他府県の取組みについては常にアンテナ高く、情報収集していく必要があると考えています。ここ最近の状況を少しお伝えしますと、本市が昨年度導入したアクティブラーニング教室や、保護者連絡用ツールといったものの運用状況について、他市町から本市の方に多数の問合せがあります。また、導入業者からは、本市の実態についてのインタビューや取材等も受けている状況です。そうした機会をとらえて、ただ、問われるだけではなく、他の自治体との繋がりを持って、それぞれの現場でどのような取組み、施策がなされているか、その都度情報収集を行い、またそれを各校に伝えるような取組みを現在行っているところです。

6　その他

各委員　なし。

教育長　以上で本日の会議を閉会します。

7 月の会議は、7 月 27 日木曜日、午後 1 時 30 分から本庁舎 5 階 5-1、5-2 会議室で開催します。皆さんお疲れ様でした。